

「東京カテドラルで聴くクリスマスの夕べ」によろこぞ！！

コンサート前にお目通しいただくと、さらにコンサートを楽しんでいただけます。

♪ もうひとつのプログラムノート 本日のコンサートの聴きどころ ♪



東京カテドラル聖マリア大聖堂にてアルス東京がお贈りする合唱シリーズ、第4回目は2006年に引き続き「国立モスクワ・アカデミー合唱団」。

「ロシア国立モスクワ・アカデミー合唱団」が所属する国立モスクワ合唱アカデミーは、ロシアが誇る国立の合唱音楽養成機関として、最高峰の位置を占めています。ロシ



ア全土から才能のある子供たちが狭き門をくぐりぬけ、一般教育と専門教育を一緒に学びます。(ロシアには、バレエ、演劇、音楽(器楽)、声楽などの専門機関があり、才能のある生徒は授業料が無料で最高の教育が受けられます。)卒業後ロシアのポリショイ劇場やマリンスキー劇場はもちろんのこと、ヨーロッパの有名なオペラハウスでもたくさんの卒業生が活躍しています。今年6月に日本に来日した「ポリショイ・オペラ」の若手期待のソリストとして注目されたワシリー・ラデュークもその一人で、以前この合唱団のメンバーとして来日しています。



<第一部>

第一部では、「世界のアヴェ・マリア」を中心に、この合唱団ならではのプログラムを組みました。

冒頭の2曲は、ロシアの合唱団として彼らの素晴らしさが最も発揮される2曲

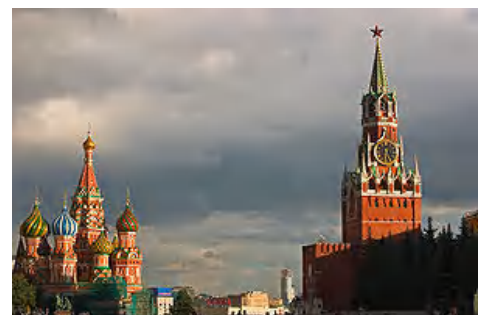
といってよいでしょう。実力のある彼らにとってあらゆるジャンルの多くの曲をレパートリーに持っていますが、このロシア正教の伝統的旋律と独特な響きが、ロシアの大作曲家ラフマニノフとチェスノコフによってさら

に見事に表現されたこの「神の御母よ、喜べ」と「天使が叫ぶ」。伝統を受け継いだこの合唱団だからこそ奏でられる“音色”を感じ取ることができると思います。

次に日本でも最も多く演奏される“アヴェ・マリア”のひとつ、J.S.バッハ/グノーの「アヴェ・マリア」。クリスマスシーズンにこの曲を耳にしない方はいないでしょう。ただしこの合唱団で、そしてこの教会で演奏されるJ.S.バッハ/グノーの「アヴェ・マリア」は、めったに聴くことのできない、格別なものに違いありません。

そして次はグランド・オペラの作曲家として名を残したイタリア人作曲家、ケルビーニ。日本でも有名なベートーヴェンに影響を与えた作曲家で、この「アヴェ・マリア」にもどこかイタリアオペラのアリアを感じさせるものがあります。

そしてオルガンのソロ「主よ、人の望みの喜びよ」。これもよく知られたメロディーですが、今回はこの東京カテドラルのパイプオルガンをじっくりと感じていただくためにオルガン・ソロ・ヴァージョンでお贈りします。カテドラルに響くオルガンの音色をお楽しみください。



ア・カペラ（合唱のみ）、合唱、そしてオルガン・ソロの響きの後は、ギター・ソロ。後半のプログラムで活躍する若手ギタリスト大萩康司によるギター・ソロ。モンポウの「コンポステラ組曲」より。静寂の中に響く弦の音に、心洗われる思いを感じるに違いありません。



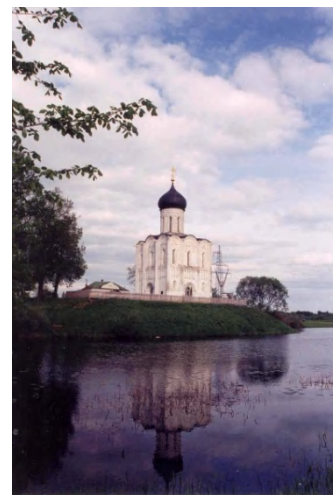
続いて「世界のアヴェ・マリア」からサン＝サーンス（フランス）、グリーグ（ノルウェイ）の「アヴェ・マリア」。知る人ぞ知る名曲です。

「世界のアヴェ・マリア」の最後にふさわしい曲はカッチーニの「アヴェ・マリア」。神秘的で美しいメロディー。静かで繊細な歌声と豊かで重厚なハーモニーの対比…。オルガン、ソロ、合唱の織りなすドラマチックな名曲で、一部の最後を締めくくります。

<第二部>

後半は全く趣をかえた作品、ギターと語りのための「プラテロとわたし」。ノーベル文化文学賞を受賞した J.R.ヒメネスの名散文詩「プラテロとわたし」にテデスコが曲をつけた、ロマンとファンタジー溢れる作品です。アンダルシアの故郷の田園生活の中で、読書と瞑想と詩作に没頭したヒメネス。月のように銀色の、やわらかい毛並みの口バ、プラテロに優しく語りかけながら過ごした日々を散文詩に描き出します。スペイン文化研究家、音楽評論家として知られた濱田滋郎氏による解説もさらに作品の理解を深めます。昨年のサントリーホールでの公演に引き続き、若手期待のギタリスト大萩康司と今注目の俳優浦井健治、そして国立モスクワ・アカデミー合唱団の少年によるコラボレーションにご期待ください！！

*プログラムは出演者の都合により当日の可能性もごございます。この「聴きどころ」は予定プログラムに基づいて作成しましたので、当日曲目変更があった場合は上記記載のものと異なります。あらかじめご了承ください。



🎵 歌は音楽の原点

弊社アルス東京では、創立以来 20 年以上、毎年海外の優れた合唱団を招聘し日本で公演を行っています。この「東京カテドラル聖マリア大聖堂」でも 4 年前より毎年公演を行い、ご好評をいただいております。

歌は生活の中で生まれ、あらゆる音楽の原点となっています。誰もが声という楽器を使って表現することができ、また芸術としても全世界のあらゆるジャンルに渡っています。

人間の喜怒哀楽を歌は表現し、あらゆる人々の力になっているといえるでしょう。

弊社アルス東京はクラシック音楽を中心に舞台芸術、民族音楽などの公演を行っています。クラシック音楽ファンのみならず、多くの人々の心にふれる音楽をご提供していきたいと考え、合唱の公演を今後も毎年行っていきたいと考えています。今後ともアルス東京のご提供する公演にご注目いただければ幸いです。

*2010 年は「チェコ少年合唱団「ボニ・ブエリ」」の公演を予定しています。合唱団、その他の公演情報ご希望の方（まだ未登録の方）は、登録用紙にご記入の上、本日会場にてご提出くださるか、後日ファックス、メールでも受け付け致します。

（詳細はアルス東京情報登録用紙をご覧ください。）

アルス東京 東京都港区西新橋 2-4-9 南桜ビルアネックス I TEL:03-3580-0379/Fax:03-3580-0978
Email : haisinkibou@arstokyo.co.jp HP : <http://www.arstokyo.co.jp/>